

研究結果報告書

日本古代文学と唐代伝奇に関する比較研究

所属： 同済大学 外国語学院 日本語学科
役職： 教授
氏名： 李 宇玲

本研究は、『伊勢物語』『源氏物語』などの平安物語の生成過程を、日中文化交流の視点から考察するものである。一年半にわたる研究の結果、以下のような成果を得ることができた。

まず、中国唐代の小説である唐代伝奇と平安物語の関係を総括的に捉えたところ、両者のあいだに受容が認められたのは、男女の恋愛を主題とする作品であることが確認できたので、その原因について論述した。研究の基礎的作業として、2013年5月に、国際シンポジウムにて「禁忌の物語の系譜」のテーマで研究発表をおこない、さらに2014年4月にはそれを論文にまとめ、発表した。

次に、平安物語における唐代伝奇の受容の様相を、従来の研究とは異なる新しい視点から論考した。平安物語では、「かいまみ」が男女の出会いの典型的な形としてしばしば見られるが、今までは、唐代伝奇の『遊仙窟』の影響を受けていると指摘されてきた。『遊仙窟』の本文を調査した結果、実際、「かいまみ」が描かれていないことを確認し、古写本の調査も含めて何故古代日本において「かいまみ」の読み方が生まれたかについて改めて考察してみた。2013年7月、北京日本学研究中心と東京大学の合同シンポジウムにおいて研究成果の一部を発表した。そして、2014年5月「源氏物語と対外交流」と題する論文を発表し、『源氏物語』をはじめとする平安物語が、唐代との文化交流のなかで如何に創作されたかと云う問題をも視野に入れ、「かいまみ」の読みが生まれた文化的背景と複層的な受容について問題を提起した。

そして、一連の研究の集大成として、「かいまみの文学史」（2015年2月刊行予定）と題する論文を発表し、その中で、かいまみを含めて禁忌的な主題を好んで扱う平安物語の特徴に注目し、唐代伝奇と比較しつつ、日中両国における恋愛文学の本質を問い直した。

本研究を通して、従来の学界の通説を見直すことができ、さらには、日本文学研究と中国文学研究を横断した考察方法を利用して、平安文学の研究における新たな知見を指摘することができた。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

1. 禁忌の物語の系譜・李宇玲・2013年日本語教育と日本語学国際シンポジウム・2013年5月25日・中国上海/同済大学
2. かいまみの文学史・李宇玲・2014年国際シンポジウム「日本文学研究と中国－研究の国際化をめざして－」・2013年7月8日・中国北京/北京日本学研究中心

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

1. 「禁忌の物語の系譜」・李宇玲・『日語教育與日本学研究』・中国華東理工大学出版社・2014年4月
2. 「源氏物語と対外交流－交流が作る日本文化－」・李宇玲・『新時代への源氏学6 虚構と歴史のはざままで』・日本竹林舎・2014年5月
3. 「かいまみの文学史－平安物語と唐代伝奇のあいだ」・李宇玲・『アジア遊学』・日本勉誠出版・2015年2月予定

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)